

## 第7回宝達志水町総合計画審議会

- 1 日時 令和元年12月25日(水) 14:00~16:30
- 2 場所 生涯学習センターさくらドーム21 2階 視聴覚室
- 3 審議会委員

No.	団体名等	氏名	備考
1	宝達志水町区長会	山本 外志男	
2	宝達志水町老人会連合会	新田 伸吉	
3	宝達志水町民生児童委員協議会	中村 俊夫	
4	宝達志水町教育委員会	北山 茂夫	欠席
5	宝達志水町農業委員会	大山 幹雄	
6	宝達志水町文化協会	廣正 清明	
7	宝達志水町商工会	市村 昭代史	
8	公募委員	岡田 政信	
9	宝達志水町社会福祉協議会	米谷 勇喜	
10	金沢大学	宇野 文夫	欠席
11	経済・金融評論家	津田 栄	
12	宝達志水町体育協会	寺崎 敏治	
13	石川県中能登農林総合事務所	古西 広	
14	北陸大学	南谷 直利	
15	宝達志水町PTA連合会	木全 慎一郎	欠席
16	宝達志水町PTA連合会	赤池 大輔	
17		前田 菜穂	
18		西澤 小百合	

- 4 議題 (1) 基本計画(案)について
- 5 その他
- 6 閉会

<副町長挨拶>

ご出席いただきありがとうございます。今回は第7回の審議会となり、時間も限られる中ではありますが、皆さまの想いやぜひ言いたいことについて、ご意見をいただければと思います。

○：委員発言、●：事務局及び各課回答

#### 4. (1) 基本計画(案)について

- A委員：前回会議の最後に指標の一覧に対して意見させていただいたが、目標値について10年の計画期間で推移が同程度、もしくは、若干上がるだけのものがある。この計画書を町民が見た際、このような目標値では役場が何もしないように思われるだろう。人口減少などの要素が影響するのは分かるが、例えば2-3の図書館の一人当たりの貸出数について児童数減少の影響に関わらないので、プラスであるべきだろう。また、1-3ではボランティア数を示しているが、読み手には設定された数値が何を指しているのか分からない。ある程度夢があるべきで、読み手にとっては行政が努力しないと感じられる可能性がある。前回から意見を出しているのに変わらず、意見を言っても無駄であるように感じる。各ページについては、施策を分けて見やすくなったが、内容が一行のものもあり、将来のイメージが見えてこない。
- B委員：目標値が横ばいであると行政の努力が見えてこないで、達成できなくても目標が上向きに設定すべきではないか。図書館の貸出数も現状維持を目指すのではなく、高めに設定すべきではないか。
- 事務局：人口減少を受けて一生懸命取り組んでも現状維持という想定で設定しているが、数値が上げられるものがあれば、再検討したい。なお、審議会は今回で最後となるため、見直しについては議長と協議させていただき、調整したい。
- B委員：高い目標値を設定して欲しい。簡単に達成できるものではなく、町で頑張らなければ実現できない目標を設定すべきであろう。行政がどのように努力すればよいか、考えることが必要な数値がいいだろう。
- A委員：せめて、水洗化率くらいの差をつけてもらいたい。10年後、目標値通りにできたかどうかではなく、それに向けてやろうとする姿勢を明確にすべきである。町民が夢を持てるようにして欲しい。
- C委員：数字の目標だけを出しても意味がなく、計画が絵にかいた餅にならないようにする必要がある。例えば図書館の貸出数についても、どういう風に人を集めていくのかということが大切である。また、心の教育にしても、何となくイメージがつくようなアバウトなものではあるが、具体的な内容が伝わってこない。読んだときに、示された目標に対してどのように努力していくのかイメージが湧かないものについてはいかがなものか。学校教育の充実についても、学校図書支援室については具体であるが、抽象的なものもある。

計画期間の10年間は意外と短く、見直し期間としている中間の5年はあっという間に過ぎてしまう。ここにある全てを具体的にすすめていくためには、現段階で相当に内容が明確になっていなければならない。現状では今一つイメージができないため、内容を具体的に、町民が読んだときに自分がそこにに関わりたくなるような内容にして欲しい。

- 生涯学習課：数字については、少子化や読書離れなどの状況もあり、下げ止まりを食い止められるよう設定させていただいた。ただ、委員からの指摘を受けて、夢のある数値についても検討してみたい。図書館は司書と相談したりするなどソフト事業であり、目標数値にはそのような部分が表しにくく、貸出数が指標として挙げた。また、心の教育については、言葉の表現の問題はあるかもしれないが、具体的なことは総合計画以外の各種計画に含まれており、各計画と併せて推進していく。
- A委員：なぜ町民が見て趣旨が分からない数値を出すのか。例えば大阪の高槻市の数値は知っているのか。努力をしないのならば記載するべきではなく、努力をする部分についての数値を出せばいいのではないか。言い訳ではなく、町民に何ができるのかを考えて欲しい。
- B委員：どうやったらもっと読んでもらえるようになるか、検討されてはどうか。例えば読書に関するイベントなどを記載してはどうか。
- 生涯学習課：読書関連のイベントは開催している。イベントによりどの程度図書館利用が増えたかは手元に数値を控えていないが、読書離れの中、それなりに頑張っていると考えている。
- A委員：他地域に比べると努力をしていると私も感じるが、それが伝わってこないのは勿体ないだろう。書き方を見直して欲しい。
- 学校教育課：図書司書の数が少なく、図書司書の資格を有する職員を配置してもらいたいと要望している。今後、検討材料とご理解いただきたい。

○議長：ケーブルテレビの加入率を増やさないと、町の財政を圧迫するのではないか。現状の加入率もわかっていないが、100%加入できれば町税の足しになるのでは。また、下水道の普及率についても、各家庭の協力も仰ぎ、99.9%を目指してもらいたい。空き家もあるので100%は無理かもしれないが、また、本日の欠席委員の意見は個別に確認し、答申に反映させたい。

○B委員：8-2の経常収支比率が90未満とあるが、この数値は妥当か。民間ならば、できない数値を目標とする。できない目標を達成するために努力すべきである。できないのではなく、やろうとする意志がみえない。町税の収納率も、99.0%を維持するのではなく、100%を目指すべきである。

○D委員：10年間の計画ということで、多岐にわたる内容を綺麗にまとめようとするのは分かるが、この計画の目玉は何になるのか。太字にするなど、目立たせることはできないのか。私の持論は「新しい人が入ってこない町は成り立たない」、ということであり、

これに関する内容を重点内容として明記できないか。若い人が入ってくる魅力あるまちになるよう、町民が「やっているな」と実感のわく内容としてもらいたい。かほく市にはなぜ人が入ってくるのか。小学校が合併しても、人口は増えないように思う。思い切った目玉事業を出していただきたい。

- 事務局：総合計画は、町が多岐に渡る役割をバランスよく運営できるよう施策を挙げる趣旨もあり、ご意見の内容は十分に分かるが、本計画では均した形になるだろう。個別の計画では町民の意見を踏まえながら重点的に進められるようにしたい。
- D委員：とにかく若い世代の確保が重要である。持論ですが、都市的な発想ではなく、自然を生かしたまちにして欲しい。本会の審議委員としては、目立つ施策を挙げていただきたい。
- 副町長：若い世代の確保は最も重要であると分かり、かほく市と比べ出生率が低い点も課題である。特定分野を強く打ち出すのは分かるが、町長は手の抜ける施策はないとの想いがある。

○A委員：前回、SDGsの一覧表を示されたが、計画書には掲載しないのか。危機管理についての私の意見はどうなったのか。

- 事務局：17の項目について危機管理がないが、18番目の項目として加えればどうか、という意見についてか。
- A委員：そうである。
- 事務局：SDGsの項目に従い、危機管理については同表には掲載しない。

○B委員：総花的になることは分かるが、10年後にどのようなまちを目指すのかが見えてこない。目標値もそれにつながっているのだろうか。具体的にどのような10年後に向かって行動するのか、行政内部だけでもいいので共有して欲しい。そうしなければ、何のために目標を設けているのか見えてこない。

- 事務局：施策が総花的にならざるを得ない中ではあるが、町として自治を続けていくためには、人口の維持が必要であり、基本構想のテーマも人口確保について設定させていただいた。表現的に工夫できる部分はあるとは思っているが。
- A委員：基本構想では、若者に希望が持てるものとしていたと思うが、今回の内容を見るとバラバラのように思える。若者や子育て世代が魅力を感じるためには、例えば人口も現在から1.1倍とするなどの目標が必要なのではないか。
- B委員：これからのメインは若者と子育てであり、我々の世代ではなく、それを踏まえた目標を立てなければならないだろう。
- 事務局：国の人口問題研究所の推計では将来的に1万人を割る中、基本構想では1万人を目標としている。そのためには定住対策を進める必要がある。基本計画についても、基本構想の方向性のもとに進んでおり、人口確保は非常に難しい課題であるが、対応していきたい。
- B委員：行政内部で構わないので、高めの目標人口は設定できないのか。

→●事務局：努力して1万人確保という想定である。

○B委員：個人的にはこの施策だけでは若い人が集まらないと思う。家賃などの補助も重要であるが、若い人を魅了するものが必要であり、そのためには横ぐしで刺すような軸が必要である。委員がおっしゃることは、大きな目標や価値を示して欲しいということであろう。

○E委員：現在は京都に住んでいるが、我々の世代は横のつながりがなく分断が進んでおり、田舎のよさである人との繋がりを知る機会がない。個々の施策ではなく、みんなで繋がることなど田舎の良さを示さなければ、口コミなどでも魅力が広がっていないのではないかと不安を感じる。

○A委員：外向きに出す計画と内向きに出す計画は違うのかもしれない。ある程度は総花的な施策を記載しなければならないのは分かるが、外に打ち出せるものをもう一つ作るべきではないか。私は大阪の団地で長く暮らしたが、そこには人の繋がりがあり、それは都市も田舎も変わらないかもしれない。田舎の良さは、食べ物や水がおいしいなど様々あり、帰ってきたいと思わせるものであるだろう。かつて住んでいた高槻市周辺の都市部では、都市間で人の取り合いが進んでいた。人口が減る危機感に対し、何らかを打ち出す必要があるだろう。人が少なくなる危機感がある中、打ち出すものがなければならぬだろう。図書の貸出数が6冊であっても構わないかもしれないが、読書に係ることが他都市に比べて個性になるかもしれない。ベルギーの Redu という村では、人口は非常に少ないが古本屋が充実しており、毎週のように沢山の人が集まってくる。今回の計画は役割的にも仕方ない部分があるのかもしれないが、夢を見させてくれるような部分があってもいいのではないか。そうでなければ危機感はぬぐえないだろう。

→●事務局：ご意見の通り、今回の計画は内向きの部分もある。まちの魅力を整理したPRできるパンフレットなどを別に作っていくことも、委員の意見を頂戴しながら、検討していきたい。

○B委員：私は千葉県と三重県を廻りながら暮らしているが、三重県の南伊勢などの自治体では宝達志水町のように高齢化も人口流出も進んでいる。一方、千葉県の市川市は東京の求心力で発展が続いているが、市川の状況は若い世代には良いかもしれないが、年齢を重ねた際に何が自分たちに魅力であるか考える必要があるだろう。産業主体の施策は1980年代的であり、2000年以降は文化、歴史、自然といった別の考え方の時代ではないか。図書館についてもこの町だけのことを考えるのではなく、広域的に考えてもらえないだろうか。例えば、歴史小説が極端に充実して、魅力的なコンテンツになっているなど。町単体で考えていると茹でガエル現象（ゆっくり進行する危機に気付かず、対応を間違えること）になるので、別の視点が必要であろう。

○F委員：商工会の立場から考えると工業用地に関連した施策について、白山市のジャパンディスプレイの現状を踏まえると時代錯誤に感じる。総花的にするのは良いが、この部分は違うのではないか。

○C委員：施策の本気度について、例えば学校教育の部分を見て欲しいが、学校司書は臨時職員が多く、状況を知っている町民が読むと施策を評価できる。一方で、その下の新たな拠点づくりは、「オンリーワンの特色ある…」と抽象的で具体に進んでいないことが分かってしまう。これでは5年、10年で目標が達成できないだろう。総花的でも良いが、読む人が読んだら分かってしまうので、もう少し具体的にイメージできるように考えていただけないか。

→●事務局：表現も含め、検討させていただきたい。

○議長：各委員からの意見への対応は議長預かりとして、事務局として修正をして答申としたい。各自、意見はまだないか。

○G委員：1年ほどかけて検討した総合計画であるが、この計画の検証はどのようにして進めていくのか。一般的な会社であれば、中期計画を作成し、それを総会などにも報告するが、進捗状況の検証が気になる。

→●事務局：内部的には各課を交えて適宜、進捗確認をする。大きくは5年目で見直すこととして、町民にも参加いただく場を用意し、見直しを図るつもりである。

○G委員：この計画では、町民へのインパクトは少ないと思う。目玉があって、それを目指していくことが必要。町全体として、どういう町としていきたいかを明確にすべきである。町長の年頭あいさつにあった「宝のあるまち」を目指していくのならば、宝のあるまちとは何であり、その実現に向けて何らかの目玉を作っていかなければならないだろう。

○H委員：目玉を書く形にした方がいいだろう。町を出た方に聞くのが手っ取り早いことではあるが。高齢化が進み町民も職員も現在と立場が変わるので、10年間の計画といっても、早々に事業を進めて欲しい。

○B委員：関東ふるさと会に参加しているが、参加者には自分の子供たちと宝達志水町との接点を維持したいと思い、出席している方もいる。まちの魅力が示されないと次の世代に魅力が伝わらないため、分かりやすく伝えるものがあって欲しい。

○D委員：都市型ではなく、田舎の魅力、味を出すということであって欲しい。

○A委員：基本構想は単調に文章が続いており、読みやすいようにレイアウトする必要があるのではないか。私が出版社出身だから言うわけではないが。

○D委員：保険の規約のような細かな文章は読まれにくいので、目に付くレイアウトして欲しい。

○I委員：実施する施策についての検証はしないのか。

→●事務局：基本計画に掲載した指標について評価する。

○B委員：実施計画を作らないのか。

→●事務局：実施計画ではなく、個別に計画を立案する。

○B委員：例えば学校教育の指標である「自分で計画を立てて～」とあるが、具体にはどのような対策をするのか。それぞれの指標の実現の方法が分からない。

→●学校教育課：「自分で計画を立てて～」は、学力テストのアンケートで把握するものとなる。

→○B委員：それでは施策と指標が繋がらないのではないか。

→●学校教育課：各分野においても施策や対象が多岐に渡り、指標で評価しにくいものもあるため、このような指標を挙げている。

→○B委員：指標を挙げるのなら、それに対する具体的なサポート策があるべきではないか。そうしなければ、その指標が改善されないのではないか。施策と指標の繋がりが悪いものが見られる。

→○A委員：読む人としては数値の意味がよく分からない場合がある。数値については夢があるものが良く、このようなものであれば数値目標を出すべきではないのではないか。

→○C委員：指標につながる施策を挙げるべきではないか。

→●副町長：日頃の教育現場での指導がこのアンケート結果の改善につながるので、個人的には良いと考えている。

○議長：それでは皆さん、答申に向けて議長が事務局と最終調整するという事でよいか。

－ 一同拍手 －

●事務局：年明けに議長と相談し内容を精査し、その後、町長に答申を行う予定である。

以上

